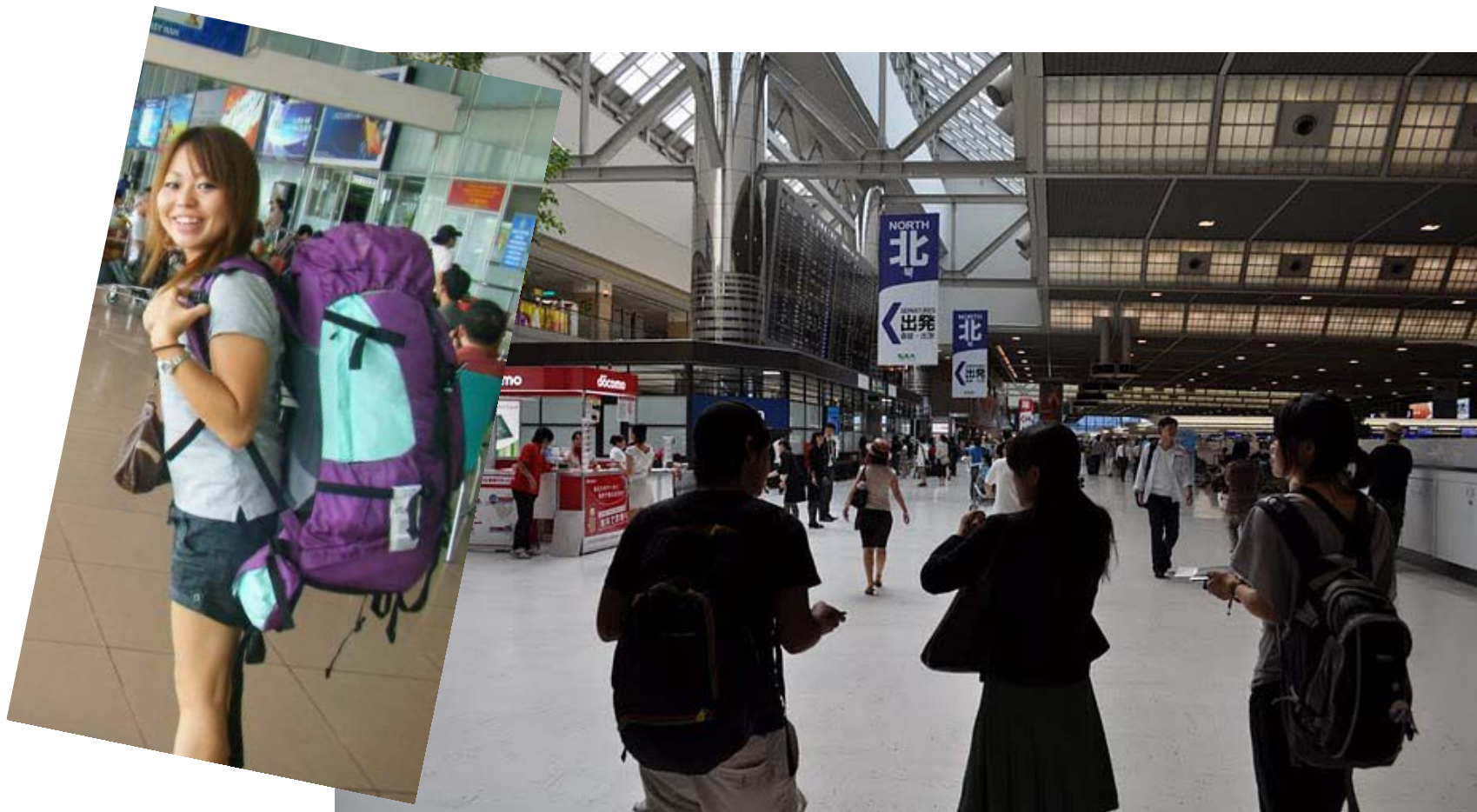




彼らから学んだこと

2010年夏、私はインド・バン格拉デシュ・ インドネシアへと旅だった。 一体どんな世界が待ち受けているのだろうか？



約11億人の人口を抱えるインド。そこには私の想像をはるかに超えた世界が広がっていた。



初めて見る物乞い。私は、彼らとどのように向き合えば良いかわからなかった。



「お腹すいた。食べ物ちょうだい」



救ってあげたい、と何度も思った。しかし何一つできない自分に無力さを感じた。

ガンジス川で出会った少年。将来の夢は、お金持ちになること。家族を幸せにしたい、と私に話した。



世界最貧困国の1つと言われているバングラデシュ。
私は小学校を訪れた。そこで出会った少年の夢は
学校の先生になること。学校が大好きだから。



インドネシアで、農村ホームステイを体験した。 言葉も通じない現地の人と過ごした3日間。

「お医者さんになりたい」
「先生になりたい」と、夢が飛び交った。



マカッサルで出会った少年。
本当は僕、学校に行きたいんだ。



私がこの旅で、現地の人から学んだことが2つある。1つは“笑うこと”

彼らは笑っていた。

生きていることを心から喜んでいた。貧しい、遅れていると言われている世界では、立派な家がなくなつて、お金がなくなつて、毎日満員電車に乗って、人には愛想笑いばかりの繰り返しをしている私なんかより幸せを感じている人間がいる。

彼らから学べることはたくさんあるんじゃないかな。



もう1つは、“夢をもつこと”



私の夢って何なのだろう。
それは、自分の手で困っている人を救うこと。

みんな自分の夢を持っていた。
大学に行って勉強して、毎日お
腹いっぱいになるほどご飯
を食べることのできる私。
でも、私には明確な夢がなかつ
た。でも彼らに、夢を持つこ
とを教えてもらった。

